

平成19年度全国学力・学習状況調査に係る 結果の考察と今後の指針（小学校用）

高松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

文部科学省は、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図るために、本調査を実施しました。

高松市教育委員会、学校は、自らの教育の結果を把握し、指導の改善に向け、有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、学力の一部であり、学校が教育活動全体で育てている学力は、これ以外にも多くあります。

2 高松市教育委員会としての方針

高松市教育委員会は、学力及び生活実態等について、結果の分析を行い、市全体の傾向を文章表現でまとめて公表することにより、保護者等に本市の実態を理解していただきます。

数値の公表は、学校の序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この調査の目的にそぐわないので行いません。

高松市教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

3 対象者（平成19年4月24日に調査した高松市立学校の小学6年の児童数）

国 語		算 数		質問紙調査
A（知識）	B（活用）	A（知識）	B（活用）	
3,666人	3,667人	3,666人	3,668人	3,668人

人数の差違については、体調不良等で受けられなかった児童がいるためです。

4 項目の説明（P 3 ～ P 7 の見方）

A（知識）

児童が身に付けておかなければ、以後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題で構成されています。

B（活用）

A(知識)を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などを問う問題で構成されています。

質問紙調査

学校や家庭での学習や生活実態について、児童が、いくつかの選択肢の中から選んで答える問題（99問）で構成されています。

記号の内容

記号	内容（平均正答率は、全国、高松市とも公立学校を対象）
	平均正答率が、全国も高松市も高かった。
	平均正答率が、全国は低かったが、高松市は少し高かった。
	平均正答率が、全国も高松市も低かった。

国 語

1 A（知識）について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国の平均正答率とほぼ同じである。

ほとんどの問題で、高松市の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回っている。

(2) 観点別の傾向

学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりする。	
文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を正しく使う。	
指示語の種類や役割を押さえた上で、文脈の中における働きを理解している。	
目的や様式に応じて必要な事柄を選んで、文章を書き換える。	
話の要点を聞き取り、効率よくメモを取る。	
聞き手にとって分かりやすいスピーチにするために、大切なことを理解する。	
一文で書かれた内容を理解し、一文を二文に分けて書く。	
物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読む。	

(3) 結果の考察

漢字の読み書き、接続語、指示語等、基礎的・基本的な内容は、よく理解できている。

書かれている内容を正確に読み取り、意味が通じるように作り直す表現力に課題がある。

文章全体から主人公の置かれている状況を把握し、それをもとに主人公の心情を推測する力に課題がある。

2 B（活用）について

(1) 全体的な傾向

高松市は，全国と同様に「国語 A（知識）」と比較すると正答率が低い。

高松市は，全国の平均正答率を上回っている。

(2) 観点別の傾向

情報の中から必要な事柄を取り出し，注意点に従って書き換える。	
2つの文章を比べて読み，共通する書き方の良さや工夫を評価し，自分の考えとしてまとめる。	
司会者として発表者の提案を聞き，内容を整理する。	
文章とグラフを関係付けて読む。	
著者の意見の理由を的確に読み，要約して書く。	
絵，言葉，数字の入った情報を的確に読み取る。	

(3) 結果の考察

情報の中から必要なものを選択し，手本の真似をして表現する力は育っている。

多くの情報が混ざっている話や文章を，取捨選択や仲間分けをしながらとらえ，それをもとに的確に表現する力に課題がある。

算 数

1 A（知識）について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国の平均正答率とほぼ同じである。

ほとんどの問題で、高松市の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回っている。

(2) 観点別の傾向

繰り上がりのある加法，整数と小数の除法，同分母の分数の加法・減法，の計算をすることができる。	
分数の意味について理解している。	
真分数を数直線上に表すことができる。	
三角形の面積を公式を使って求めることができる。	
平行四辺形の性質を使って，頂点を見つけることができる。	
加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。	
分数と小数を一つの数直線上に表し，それをもとに大小の比較ができる。	
小数の乗法が使える場合を理解している。	

(3) 結果の考察

四則計算を正確に計算する力は育っている。

整数，小数，分数を正確に数直線上に表し，その大小を判断する力は育っている。

図形の基本的な性質を理解し，面積を求めたり，応用したりする力は育っている。

文章題から分かっていることを読み取り，分からないことを見つけるためにふさわしい計算方法を見つける力に課題がある。

2 B（活用）について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国と同様に「算数 A（知識）」と比較すると正答率が低い。

高松市は、全国の平均正答率とほぼ同じである。

ほとんどの問題で、高松市の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回っている。

(2) 観点別の傾向

長方形の面積の公式を使い、L字型の図形の面積を求めることができる。	
棒グラフから大小や変化の様子を読み取ることができる。	
向きや位置が変化しても面積は変化しないことを理解し、それが説明できる。	
$25 \times 4 = 100$ になることから、筆算を使わず計算を工夫して行い、それが説明できる。	
帯グラフから割合の変化の様子を読み取ることができる。	
文章題を理解し、割合等使って代金を求め、大小を比較することができる。	
文章題を理解し、代金を求め、条件にあった物を選ぶことができる。	
文章題を理解し、計算をせずに計算式から答えを予測することができる。	
長方形のまわりの長さの求め方を理解している。	
面積を求める公式を地図に当てはめて計算することができる。	
文字式の意味を理解し、言葉に数値を当てはめて値を求めることができる。	

(3) 結果の考察

基本の図形から応用の図形を見つけ、面積の公式を使って応用の図形の面積を求める力は育っている。

棒グラフを読み取る力は育っている。

計算を簡単にする方法を見つける力は育っている。

文章題を理解する力に課題がある。

長方形における，まわりの長さと同面積の理解に課題がある。

面積の公式を日常生活に当てはめて考える力に課題がある。

文字式の言葉と数値を対応させる力に課題がある。

質問紙調査

1 下の表の見方

全国の欄に示している割合(%)は、「(いつも)している」「どちらかといえば(時々)している」と答えた児童の割合を示しています。

高松市の欄に示している「高い」「やや高い」「ほぼ同じ」「やや低い」「低い」という言葉は、全国の割合に比べて、高松市の割合がどうであるかを示しています。

()の項目は、高松市において「(いつも)している」「どちらかといえば(時々)している」と答えた児童の方が、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた児童より、国語や算数の正答率が高い傾向が見られたことを示しています。

2 起床・就寝

	内 容	全 国(%)	高松市
	普段(月～金曜日), 6時～7時の間に起きる。()	66.9	高い
	普段(月～金曜日), 9時～11時の間に寝る。	76.9	ほぼ同じ
	普段(月～金曜日), 1日に8～10時間, 睡眠をとる。 ()	65.9	ほぼ同じ

3 食事

	内 容	全 国(%)	高松市
	朝食を毎日食べている。()	95.2	ほぼ同じ
	家の人と普段(月～金曜日), 朝食を一緒に食べている。	60.7	ほぼ同じ
	家の人と普段(月～金曜日), 夕食を一緒に食べている。	87.8	ほぼ同じ

4 家族とのふれ合い

	内 容	全 国(%)	高松市
	家の人と学校での出来事について話をしている。()	68.4	ほぼ同じ
	家で食事をするときは、テレビを見ないようにしている。	22.0	ほぼ同じ
	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている。	48.2	ほぼ同じ
	家の手伝いをしている。()	78.4	ほぼ同じ

5 家庭学習

	内 容	全 国(%)	高松市
	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり30分～2時間、勉強をする。()	58.4	ほぼ同じ
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間くらいまでの時間は、勉強をする。	66.1	やや高い
	家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たり10分～1時間、読書をする。()	46.3	ほぼ同じ
	勉強する時間を自分で決めて実行している。	51.8	低い

6 遊び等

	内 容	全 国(%)	高松市
	携帯電話で通話やメールをほとんどしていない。	77.6	ほぼ同じ
	普段(月～金曜日)、1日当たり1～3時間くらい、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする。	50.6	ほぼ同じ
	普段(月～金曜日)、1日当たり1～2時間くらい、テレビゲームやインターネットをする。	63.6	ほぼ同じ

7 その他

	内 容	全 国(%)	高松市
	難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している。	72.3	低い
	学校のきまりを守っている。()	86.2	低い
	近所の人に会ったときは，あいさつをしている。()	88.6	やや低い
	人が困っているときは，進んで助ける。	76.3	低い

8 考察

高松市の児童は，早起きをし，朝食をとり，家庭でよく勉強をしている。

学習においては，「自主性」に課題がある。

日常生活においては，「挑戦する心」「規範意識」「礼儀」「助け合いの心」に課題がある。

基本的な生活習慣が身に付いている児童ほど，学力が定着しやすい。

家族との関わり（話し合いや手伝い）が多い児童ほど，学力が定着しやすい。

今後の教育施策・事業等への反映

1 国語・算数について

- (1) 平成20年度の「高松市の教育方針」の中に、課題とされている内容と対策を盛り込む。
- (2) 市が独自に雇用している学校図書館指導員も含め、各学校において工夫した読み聞かせ等を行い、本に親しむことで課題となった国語の力の育成が図れるよう指導する。
- (3) 指導主事等が、学校訪問や要請訪問等の機会を捉え、課題とされている内容について育成する方法について各学校に指導を行う。
- (4) 長期休業日に行われる教員研修（教科別研修会（国語部会・算数部会）、現職教育主任研修会等）において、課題とされている内容を育成する方法について事例研究等を行う。
- (5) 学校が、課題とされている内容を育成する方法についての外部講師の招聘を支援する。
- (6) 正答率が極めて低い児童を対象に、放課後等を利用して、個に応じた指導を推進するよう、学校を指導する。

2 生活実態等について

- (1) 道徳や特別活動の時間を中心に、全ての教育活動において「自主性」「挑戦する心」「規範意識」「礼儀」「助け合う心」等の充実を図るよう、学校訪問等で指導を行う。
- (2) 夏季休業日に行われる教員研修（教科別研修会（道徳部会）、道徳教育指導力向上研修会等）で、「自主性」「挑戦する心」「規範意識」「礼儀」「助け合う心」等の指導方法について研修を行う。
- (3) 「基本的な生活習慣の確立」「家族との触れ合いの充実」は、保護者の協力が必要不可欠であることから、ホームページ等で広く市民にその重要性を訴えるとともに、関係各課と連携を図り、地域社会やPTA等に働きかけを行う。

平成19年度全国学力・学習状況調査に係る 結果の考察と今後の指針（中学校用）

高松市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査の目的

文部科学省は、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育の結果を検証し、改善を図るために、本調査を実施しました。

高松市教育委員会、学校は、自らの教育の結果を把握し、指導の改善に向け、有効に活用するために、本調査に参加しました。ただし、本調査により測定できる学力は、学力の一部であり、学校が教育活動全体で育てている学力は、これ以外にも多くあります。

2 高松市教育委員会としての方針

高松市教育委員会は、学力及び生活実態等について、結果の分析を行い、市全体の傾向を文章表現でまとめて公表することにより、保護者等に本市の実態を理解していただきます。

数値の公表は、学校の序列化や過度の競争を招く恐れがあり、この調査の目的にそぐわないので行いません。

高松市教育委員会は、分析結果を今後の教育施策・事業等に反映していきます。

3 対象者（平成19年4月24日に調査した高松市立学校の中学3年の生徒数）

国 語		数 学		質問紙調査
A（知識）	B（活用）	A（知識）	B（活用）	
3,012名	3,018名	3,021名	3,022名	2,978名

人数の差違については、体調不良等で受けられなかった生徒がいるためです。

4 項目の説明（P 3 ～ P 7 の見方）

A（知識）

生徒が身に付けておかなければ、以後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを問う問題で構成されています。

B（活用）

A(知識)を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などを問う問題で構成されています。

質問紙調査

学校や家庭での勉強や生活実態について、生徒が、いくつかの選択肢の中から選んで答える問題（101問）で構成されています。

記号の内容

記号	内容（平均正答率は、全国、高松市とも公立学校を対象）
	平均正答率が、全国も高松市も高かった。
	平均正答率が、全国は低かったが、高松市は少し高かった。
	平均正答率が、全国も高松市も低かった。

国 語

1 A (知識) について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国の平均正答率とほぼ同じである。

ほとんどの問題で、高松市の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回っている。

高松市は、全国と比較して、無回答率がやや高く、分からないと回答しない傾向が見られた。

(2) 観点別の傾向

聞き手を意識して使用する語句を工夫する。	
話し手の意図を理解し、内容にふさわしい題名をつける。	
歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取る。	
伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめる。	
目的にあった質問や不足している情報の質問ができる	
語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。	
文の成分の照応に注意して文章を書く。	
生活の場面で敬語を適切に使う。	
文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりする。	

(3) 結果の考察

聞き手が分かりやすい言葉を適切に使う力は育っている。

話の主題をとらえる力は育っている。

歴史的仮名遣いで書かれた表現を読み取る力は育っている。

要点をメモしたり、足りないことを見つけたりする力は育っている。

文脈から適切な漢字を選ぶ力は育っている。

前半と後半のつながりを考えて文を書く力は育っている。

適切な敬語を選ぶ力は育っている。

文脈に即して正しく漢字を読んだり書いたりする力に課題がある。

2 B（活用）について

(1) 全体的な傾向

高松市は，全国と同様に「国語 A（知識）」と比較すると正答率が低い。

高松市は，全国の平均正答率とほぼ同じである。

全ての問題で，高松市の平均正答率は，全国の平均正答率を少し上回っている。

高松市は，全国と比較して，無回答率がやや高く，分からないと回答しない傾向が見られた。

(2) 観点別の傾向

必要な情報を収集し，表現に生かす。	
作品の展開や心情の変化に着目して朗読する。	
資料に表れているものの見方や考え方をとらえ，伝えたい事柄や考えを明確にして書く。	

(3) 結果の考察

要点と要点をつないで考える力は育っている。

物語のあらすじを大まかにとらえる力に課題がある。

物語のイメージの変化に合わせて朗読に変化をつける力に課題がある。

数 学

1 A (知識) について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国の平均正答率を上回っている。

(2) 観点別の傾向

正の数と負の数の大小関係を理解できる。	
指数（2乗）を含む正の数と負の数の計算をすることができる。	
角の二等分線の作図の手順を理解している。	
長方形を回転させると円柱になることを理解している。	
円錐の展開図の形を理解している。	
平行線に直線が交わってできる角の性質を理解している。	
円周角と中心角の関係を理解している。	
文字式の意味を理解し、図形と関係づけることができる。	
等式を目的に合うように変形することができる。	
方程式の移項の意味を理解している。	
空間での面と直線の位置関係について理解している。	
記号を用いて表された位置関係や相当関係の意味を理解している。	
比例のグラフから式を求めることができる。	
反比例の関係を表すグラフの特徴を理解している。	
2つの数量の関係が一次関数になるものとならないものを区別できる。	
グラフから速さを求めることができる。	
連立方程式とグラフの関係を理解している。	
反比例の関係をもとに対応する数を見つけることができる。	
確率の意味を理解している。	
樹形図等を使って、場合の数を求めることができる。	

(3) 結果の考察

負の数の大小を理解し，それを含んだ計算をする力は育っている。

空間図形を立体としてイメージしたり，空間での面と直線の位置関係を理解したりする力は育っている。

文字式の意味を理解し，図形と関係づける力は育っている。

等式を目的に合うように変形する力や，それを利用した方程式の移項の意味を理解する力は育っている。

2つの数量の関係が一次関数になるかどうかを区別したり，比例のグラフから式を求めたりする力は育っている。

確率の意味の理解や，樹形図等を使って，場合の数を求める力に課題がある。

2 B（活用）について

(1) 全体的な傾向

高松市は、全国と同様に「数学A（知識）」と比較すると正答率が低い。

高松市は、全国の平均正答率とほぼ同じである。

ほとんどの問題で、高松市の平均正答率は、全国の平均正答率を少し上回っている。

(2) 観点別の傾向

与えられた情報を的確に処理したり比較したりできる。	
グラフから情報を読み取り、事象に対応させて解釈できる。	
数式から式の意味を理解したり、式の意味を説明したりすることができる。	
条件にあった計算式をつくり、その式が条件に合うことを説明できる。	
情報を分類整理し、判断したり、筋道立てて説明したりすることができる。	
図形の証明をすることができる。	

(3) 結果の考察

情報を読み取り、処理したり、事象に対応させたりする力は育っている。

数式の意味を理解したり、条件にあった式を作ったりする力は育っている。

結論について筋道立てて説明する力に課題がある。

質問紙調査

1 下の表の見方

全国の欄に示している割合(%)は、「(いつも)している」「どちらかといえば(時々)している」と答えた生徒の割合を示しています。

高松市の欄に示している「高い」「やや高い」「ほぼ同じ」「やや低い」「低い」という言葉は、全国の割合に比べて、高松市の割合がどうであることを示しています。

()の項目は、高松市において「(いつも)している」「どちらかといえば(時々)している」と答えた生徒の方が、「あまりしていない」「全くしていない」と答えた生徒より、国語や数学の正答率が高い傾向が見られたことを示しています。

2 起床・就寝

	内 容	全 国(%)	高松市
	普段(月～金曜日), 6時30分～7時30分の間に起きる。()	58.5	高い
	普段(月～金曜日), 10時～12時の間に寝る。	64.5	ほぼ同じ
	普段(月～金曜日), 1日に6～8時間, 睡眠をとる。()	66.9	ほぼ同じ

3 食事

	内 容	全 国(%)	高松市
	朝食を毎日食べている。()	91.6	ほぼ同じ
	家の人と普段(月～金曜日), 朝食を一緒に食べている。	40.6	ほぼ同じ
	家の人と普段(月～金曜日), 夕食を一緒に食べている。	80.3	ほぼ同じ

4 家族とのふれ合い

	内 容	全 国(%)	高松市
	家の人と学校での出来事について話をしている。()	57.8	ほぼ同じ
	家で食事をするときには、テレビを見ないようにしている。	18.2	ほぼ同じ
	テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めている。	22.3	ほぼ同じ
	家の手伝いをしている。()	63.3	低い

5 家庭学習

	内 容	全 国(%)	高松市
	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1～3時間、勉強をする。()	55.3	ほぼ同じ
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間くらいまでの時間は、勉強をする。	47.7	ほぼ同じ
	家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たり10分～1時間、読書をする。()	36.6	ほぼ同じ
	勉強する時間を自分で決めて実行している。	38.2	低い

6 遊び等

	内 容	全 国(%)	高松市
	携帯電話で通話やメールをほとんどしていない。	44.8	高い
	普段(月～金曜日)、1日当たり1～3時間くらい、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする。	53.0	ほぼ同じ
	普段(月～金曜日)、1日当たり1～2時間くらい、テレビゲームやインターネットをする。	35.6	ほぼ同じ

7 その他

	内 容	全 国(%)	高松市
	難しいことでも，失敗を恐れなくて挑戦している。	62.0	やや低い
	学校のきまりを守っている。()	85.7	ほぼ同じ
	近所の人に会ったときは，あいさつをしている。()	82.4	やや低い
	人が困っているときは，進んで助ける。	72.4	低い

8 考察（全国と比較して）

高松市の生徒は，早起きをしている。

学習においては，「自主性」に課題がある。

日常生活においては，「挑戦する心」「礼儀」「助け合いの心」に課題がある。

基本的な生活習慣が身に付いている生徒ほど，学力が定着しやすい。

家族との関わり（話し合いや手伝い）が多い生徒ほど，学力が定着しやすい。

今後の教育施策・事業等への反映

1 国語・数学について

- (1) 平成20年度の「高松市の教育方針」の中に、課題とされている内容と対策を盛り込む。
- (2) 市が独自に雇用している学校図書館指導員も含め、各学校において工夫した読み聞かせ等を行い、本に親しむことで課題となった国語の力の育成が図れるよう指導する。
- (3) 指導主事等が、学校訪問や要請訪問等の機会を捉え、課題とされている内容について育成する方法について各学校に指導を行う。
- (4) 長期休業日に行われる教員研修（教科別研修会（国語部会・数学部会）、現職教育主任研修会等）において、課題とされている内容を育成する方法について事例研究等を行う。
- (5) 学校が、課題とされている内容を育成する方法についての外部講師の招聘を支援する。
- (6) 正答率が極めて低い生徒を対象に、放課後等を利用して、個に応じた指導を推進するよう、学校を指導する。

2 生活実態等について

- (1) 道徳や特別活動の時間を中心に、全ての教育活動において「自主性」「挑戦する心」「礼儀」「助け合いの心」等の充実を図るよう、学校訪問等で指導を行う。
- (2) 夏季休業日に行われる教員研修（教科別研修会（道徳部会）、道徳教育指導力向上研修会等）で、「自主性」「挑戦する心」「礼儀」「助け合いの心」等の指導方法について研修を行う。
- (3) 「基本的な生活習慣の確立」「家族との触れ合いの充実」は、保護者の協力が必要不可欠であることから、ホームページ等で広く市民にその重要性を訴えるとともに、関係各課と連携を図り、地域社会やPTA等に働きかけを行う。